



国立成育医療研究センターのご案内

2024年度 看護職員募集要項



NATIONAL CENTER FOR
CHILD HEALTH AND DEVELOPMENT



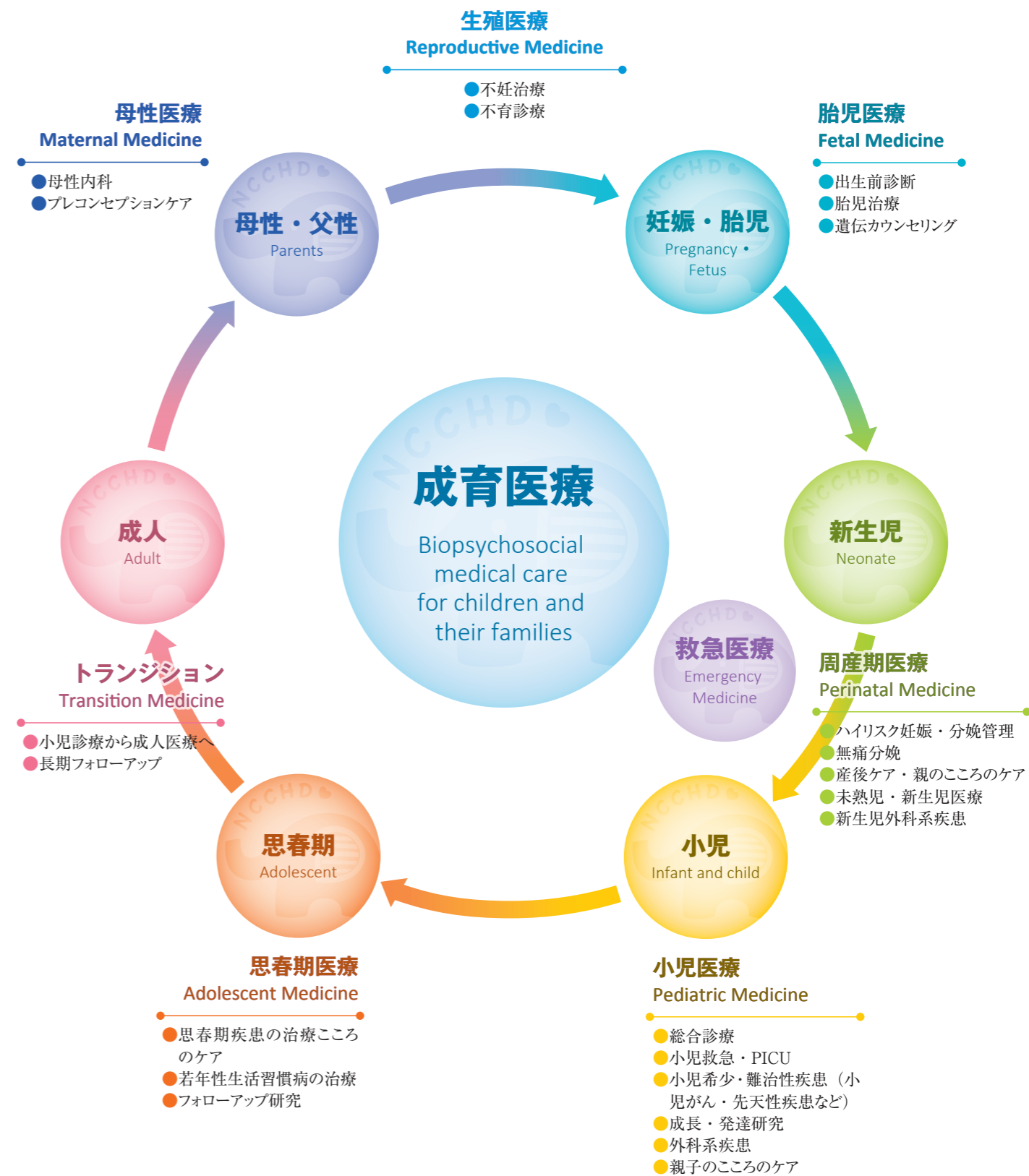
国立成育医療研究センターの基本理念

国立成育医療研究センターは、病院と研究所が一体となり、健全な次世代を育成するための医療と研究を推進します。

Our Mission 基本方針【私たちが目指す成育医療の4つの柱】



リプロダクションサイクルを連続的・包括的に捉え対処する成育医療



NURSING DEPARTMENT PHILOSOPHY

看護部の理念

命をはぐくみ、子どもと家族の
未来を支える看護をめざします。

POLICY

看護部の方針

1. 生命と人間性を尊重した看護を実践します。
2. 成長発達を助け、次のライフステージを見据えた支援を行います。
3. 成育看護を創造・発展させる人材を育成します。



PRESIDENT MESSAGE

理事長メッセージ

成育医療研究センターで看護師としての キャリアアップをはかりませんか？

国立成育医療研究センターは受精・妊娠に始まり、胎児期、新生児期、乳児期、学童期、思春期を経て次世代を育成する成人期へと至るリプロダクションによってつながれたライフサイクルに生じる疾患に関する医療(成育医療)と研究を推進するためのわが国唯一のナショナルセンターです。

当センターは感染症などの急性疾患だけでなく、難病などの慢性疾患を持つ子どもとその御家族や、合併症妊娠や出産を願う女性やその御家族が安心して確かな医療を受けることができることを心がけています。とりわけ、優しく接してくれる看護師の存在は重い病気を持つ子どもや御家族にとって大きな支えになっています。

これからの看護師は看護師本来の仕事を通して専門性の高い看護や医療のプロとして発展するだけでなく、臨床研究を推進するためのコーディネーターや患者支援の専門職など、新しい分野でのプロフェッショナルとして活躍する道も開かれています。多くの看護師が当センターに入職され、看護、保健、福祉、看護研究、看護教育の分野で活躍する有能な人材に育って戴くことを心から願っています。

理事長 五十嵐 隆



DIRECTOR MESSAGE

院長メッセージ

子ども・妊産婦さんのために一緒に働きませんか？

当センターは国の6ナショナルセンターのひとつで、小児・妊産婦さんの医療・研究を行っています。胎児や小さな赤ちゃんから妊産婦さんまでを治療対象にしておりますので、優しい人柄の医療スタッフが多く、小さな命を助けるために職員が一丸となって、病気に悩むご家族を支援しながら、日々真摯に診療・研究を行っております。看護部は風通しの良い組織で、センター設立から20年で培われた良質な小児・妊産婦看護学が、先輩から後輩へ脈々と引き継がれております。センターの特殊性から、各種専門看護師や認定看護師も多く、資格取得するための助成制度も備えて

おります。また研究所も併設されておりますので、看護研究も盛んに行われております。

またセンターは世田谷区成城学園が最寄り駅で、近隣には砧公園・大蔵運動公園・東宝スタジオ・東京メディアシティーなどの施設があり、緑豊かでクリエイティブな環境の中に立地されています。

皆様はどんな職場で看護師としての専門性を生かし、成長していきたいでしょうか？ご自身のキャリアアップはもちろんですが、未来を支える子どもたち・妊産婦さんの医療に関われることは、これからの皆様の未来も明るく照らす経験になるかと思えます。私は小児臓器移植を専門としており、沢山のお子さん達の臓器移植を執刀させていただきました。お子さん達やご家族の病との戦いから、多くの勇気をいただき日々の糧となっております。皆様も私達と一緒に、未来を作る看護師として働いてみませんか？



院長 笠原 群生



眺めのよい病棟の待合スペース



院内学校「そよ風分教室」の入り口



森の中に入っていくイメージの手術室



検査・治療に向かう廊下の壁紙



成育のキャラクターロゴのモデルとなった象のオブジェ



クラウドファンディングによって刷新した象の救急車



大型の木製オブジェ「ひとりじゃないね」



ベンチを牽引する木製の機関車

ゆったりとした周産期病棟の有料個室

カラフルな椅子を多数配置



プレパレーションで使用する木のおもちゃ



可愛い小児病棟の有料個室



癒しの処方箋彫刻「アネハネハのおはなし」

仕掛けのあるオブジェ「元氣ザウルス」



子どもの緊張をほくすドーナツ柄のCT検査室



大型の木製オブジェ「ようこそ」



「そよ風分教室」の内部風景



体験もできるキッズトレイン



エレベーター内天井の照明

あなたの無限な可能性を発揮できる看護師を目指しませんか？

当院は、「小児・周産期の病院で働きたい」と希望する方にとって、自己成長できる職場です。看護部の教育体制は、スタッフが自己成長できるキャリアラダーを取り入れ、成育看護の専門性に基づくリーダーとなる人材育成に力を入れています。個々の成長が組織全体の成長となるよう支援しています。専門看護師や認定看護師の資格取得するための研究休職制度もあります。

こどもをケアする看護職員にとって一番大切なことは、常に倫理的感受性を持ち、こどもの権利を擁護すること。これは成育看護の基盤であり見失ってはいけないものです。さらに、こどもの権利条約の4つの原則を踏まえ、「こどもの持つ力を引き出す関わり」「こどものセルフケア能力を高め、サポートする実践」「こどもの意思決定を支えるケア」「家族の理解を促進するケア」「きょうだい支援」「family-centered care (FCC)」「安全で安楽な助産ケア」など、患者さん・ご家族に合わせた様々な看護を展開しています。発達段階に合わせ、医療・学校教育・福祉が連携し、患者さんと共同した治療やケアを行います。看護職員は、その看護ケアを通して、患者さんからも多くのことを学びます。

就職活動をされているみなさまへ

みなさまは、社会人としてスタートラインに立つ施設を、何に重きをおいて選んでいますか？
看護師は、卒後の教育を受けるだけではなく、患者・家族のケア、多職種との連携、院外を超えたネットワーク等、組織の中でその職場環境の影響を受け、人として成長していきます。当院には人材育成の仕組みと豊富な経験があります。
みなさまには、無限の可能性が広がります。私たちとともに、あなたの能力が発揮できる看護師を目指しませんか？



看護部長 嶋田 せつ子

「小児・周産期医療や看護を学びたい！専門性を磨きたい！」 ～自己成長できるフィールドがここにある～

みなさんは、どのような看護師・助産師になりたいですか？
「命をはぐくみ、子どもと家族の未来を支える看護をめざします」
これは、当院の看護部の理念です。看護部の教育は、理念をふまえ、患者・家族の QOL の維持、向上を目指した質の高い成育看護を実践できる看護職員を育成することを目的としています。

当院の教育体制は、個々の取り組みを支援し、当院の看護職員としてのキャリアをデザインできるよう能力開発プログラムを作成しています。経験年数別ではなく、年齢を重ねても、個々の実践能力に合った研修を受講していただけることが特徴です。研修は、専門看護師や認定看護師が講師を担当し、質の高い研修を受講することができます。

所属部署では、看護師長・副看護師長をはじめ、実地指導者と呼ばれる4年目以上の看護師が、COVID-19 禍の影響を受け不安を持ちながら入職される新人看護職員の特徴に合わせ、看護技術の指導や精神的支援を行っています。また、2,3年目看護師がサポーターとなり、精神的支援をしています。新社会人として、そして新人看護職員として働く中では、嬉しいことも大変なこともあると思います。そんな時は、2,3年目看護師が、少し前まで新人看護職員だったからこそわかる経験で、親身になって話を聞き、職場に一日でも早く慣れるようサポートします。
所属部署以外でも、看護部長・副看護部長をはじめ、教育担当看護師長・教育担当副看護師長やリエゾン精神看護専門看護師が、部署と連携をとりながら、成長を支援します。

当院は、「小児・周産期医療や看護を学びたい！専門性を磨きたい！」という志を持つ仲間がたくさんいます。また、看護職員だけでなく、専門性の高いメディカルスタッフがたくさん働いています。同じ志を持つ多く仲間と出会い、共に働き、自己を成長させてみませんか？

『ひまわりの花言葉 あなたは素晴らしい 素晴らしいあなたにたくさんの素敵な出会いと成長がありますように』

(新人看護職員 ポートフォリオ 表紙より)

私たちは、みなさんがどのような看護師・助産師になりたいかを大切に、一人ひとりの成長を、病院内全体でサポートします。

教育担当 看護師長 井比 舞子



ともに学び、ともに成長する。一人ひとりの成長意欲をバックアップ。

国立成育医療研究センターは成育医療のモデル医療や高度先駆的医療を提供するとともに、情報発信の役割を担っています。そのため、看護においても、その役割を果たすことが求められています。

“看護部の理念をふまえ、患者・家族のQOLの維持、向上を目指した質の高い成育看護を実践できる看護職員を育成する”という教育目的のもと、看護職員が看護専門職として責務を遂行するために必要な能力を獲得・維持・向上するための教育体制を整え、成長意欲をバックアップしています。

看護部教育体制プログラムでは看護実践能力を5つのレベルと7つの力に分類しています。それぞれの目標が達成できるように学習項目に沿いそれぞれの成長を支援しつつ、看護職員一人ひとりが確実に看護実践能力に磨きをかけていけるプログラムを準備しています。「ともに学び、ともに成長する」をモットーにお互いに支援しあいながら成長することを大切にしています。

看護部教育体制プログラム							
	成育医療のジェネラリスト/専門看護師/認定看護師/ 学会認定資格(移植コーディネーター/臨床研究コーディネーター など) など				幹部看護師/認定看護管理者/ 医療安全管理者 など	教員/教育担当者 など	研究者 など
レベルV	急変時対応 (BLS)	PALS	チームのコーディネーション	看取りにおけるスタッフ支援	看護マネジメント		学会発表 (主任研究者)
レベルIV	急変時対応 (BLS)	PALS	ファンリテーション	倫理的課題に対するアプローチ	診療報酬と看護 幹部看護師任用候補者研修		学会発表 (主任研究者)
レベルIII	看護記録の質的評価			エンドオブライフケアにおける意思決定支援	問題解決②		
	臨床判断②	PEARS	アサーティブコミュニケーション	意思決定支援②	問題解決①	キャリアデザイン② 実習指導者講習会	学会発表
レベルII	緩和ケアにおけるアセスメント		入退院支援	エンドオブライフケアにおける家族支援		後輩育成③ 後輩育成②	
	医療安全②						
レベルII	急変時対応 (BLS)	PEARS	リーダーシップ	意思決定支援①		後輩育成①	看護研究 学会発表
			メンバーシップ	緩和ケア		キャリアデザイン①	事例検討 学会参加
レベルI			医療連携				看護実践報告②
	多重課題対応				医療機器の取り扱い	医療安全管理体制	フォローアップ (1・6・11か月)
レベルI	対象理解と看護過程の展開	1年以内に到達を目指す看護技術	チーム医療に必要なコミュニケーション	看護職の倫理	看護必要度	院内感染予防管理体制	
	フィジカルアセスメント	看護記録	静脈注射と静脈血採血	社会における自施設の役割		情報管理	
		褥瘡・創傷の予防	ハイリスク薬の取り扱い	チーム医療における看護職の役割			
		医療安全①	病態把握				
		感染対策	麻薬・向精神薬の取り扱い				
		急変時対応	NCPR				
	急変時対応 (BLS)						
7つの力	ニーズをとらえる力	ケアする力	協働する力	意思決定を支える力	マネジメントする力	自律する力	情報発信する力
	看護実践能力				組織的役割遂行能力	自己教育・研究能力	

看護部で実施する研修
 所属部署で実施する研修
 多職種合同の研修
 または 外部研修
 新採用者研修

入職1年目の多彩な研修プログラム

入職1年目の看護師向けの研修プログラムをご紹介します！社会人として、看護師としての基礎を学べる新採用者研修をはじめ、成長段階に応じてスキルや知識に磨きをかけていくための様々なプログラムを用意し、一人ひとりの着実なステップアップを支援します。

新採用者研修・基礎看護技術 社会人としてのマナーや心構えを身に付ける

研修初日は「接遇とマナー」の講義の中で、センターの看護職員としてのルール、基本的な態度や身だしなみ、更衣室や仮眠室の使い方などについて学びます。2日目には、感染予防の講義を受け、手洗いと防護具装着の実技を行います。コロナ禍のため集合教育で行えない講義については、自宅にてビデオ学習します。医療安全や皮膚保護などについて学びます。



多重課題研修 考えていますか？ 優先順位

学生時代は1名だった受け持ち患者も、臨床で働くと複数名を受け持つことになります。複数患者を受け持つ中では、ケア・検査・処置といった多重課題が発生することがあります。そのようなときに大切なのは、優先順位を考えること。この研修では、先輩と組んで、午前中は自分の看護を先輩にシャドーイングしてもらい、後でアドバイスを受けます。午後は逆に先輩のシャドーを行い、先輩の看護を学びます。先輩との振り返りの中で、新たな学びや気づきがあり、優先順位の付け方について学びを深めることが出来ます。

対象理解研修 理論は看護のよりどころ

学生時代にも学ぶ発達理論。看護理論は看護実践のよりどころ。「対象理解研修」では小児看護専門看護師による講義を通じて理論について学ぶことが出来ます。学んだことは実践で活用し、「看護実践報告①」で、発表会という形で実践を報告します。日々の看護を言語化するのはとても重要なことです。また同僚の報告を聞くことでも、学びを深めることが出来ます。



静脈注射研修プログラム 点滴管理の基礎を身に付けよう

まずは、eラーニングで静脈注射管理の基礎について学びます。必要物品や静脈注射の手順、配合禁忌薬などについて確認します。次に実際の物品を用いて、実技を行います。静脈に穿刺する技術を学ぶとともに、指示の確認方法や安全に管理するための方法についても実施しながら身に付けていきます。

救急看護研修 急変発生！ 新人に出来ることを学びます！

臨床の現場では患者が急変することも少なくありません。そのような時に、どう対応すればよいか、講義と実技で学びます。講義では、患者のフィジカルアセスメント方法、救急カートの薬品・物品について学びます。実技では3名で救急蘇生の演習を行い、手技の確認とスタッフ間の連携方法について学びます。



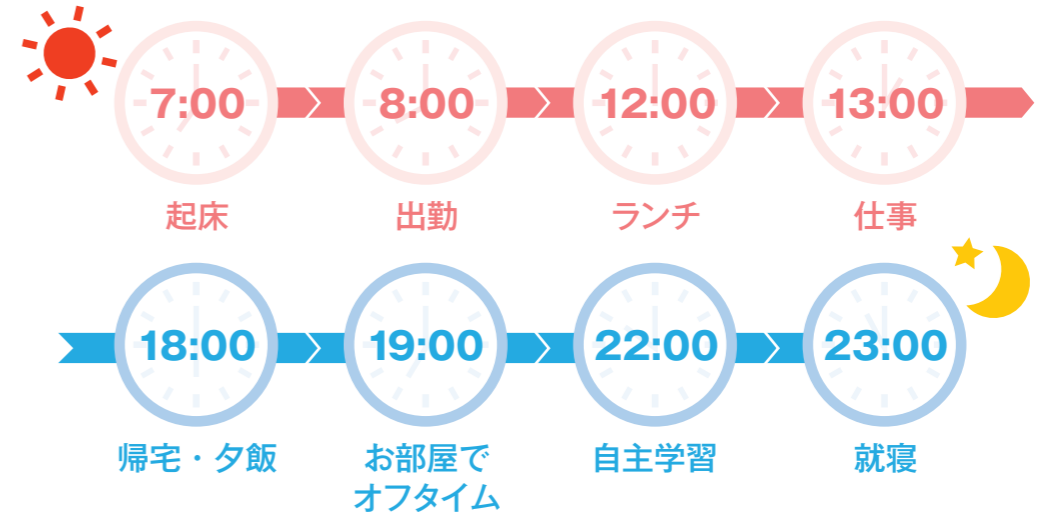
SCHEDULE 1日 & 1週間のスケジュール

オンもオフも全力投球！ 看護師の1日 & 1週間



看護師の1日

看護師宿舎から病棟までは歩いて約10分！出勤したら夜勤スタッフから申し送りを受け、日勤スタッフでショートカンファレンスを行い、情報をしっかり共有します。午前中はバイタルサイン測定や清拭、処置の介助、検査への付き添いなどを行うことが多いです。午後は食事介助や点滴準備、患者指導などの看護を行っていきます。退勤前には報告や夜勤スタッフへの申し送りを行い、看護記録を記載。仕事が終わったらプライベートタイム。お部屋でゆっくりくつろぎながら「おつかれさま」！



これが看護師のお仕事風景です♪



検査準備

午前中は検査を受ける患者さんが多いので、かわいい子ども用ストレッチャーを準備。



カンファレンス

スタッフ間で患者さんの情報を共有し、今後の看護方針などについて意見をすり合わせます。



点滴準備

午後の点滴の準備。患者さん一人ひとりの点滴投与のスケジュールをしっかりと確認！



報告

綿密な「報・連・相」は看護師の基本。スタッフ全員で連携し合い、より良い看護につなげます。



看護記録記載

電子カルテに患者さんの情報や今日実施した看護、今後の看護計画などを記載し情報共有。

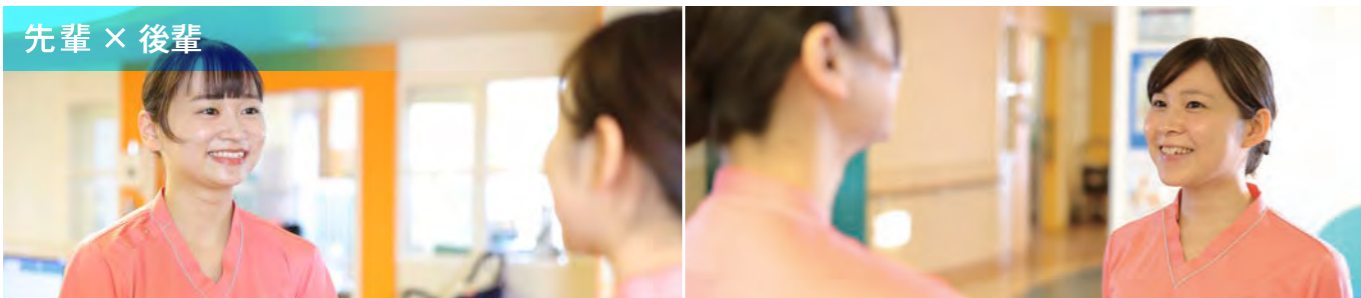
ある1週間の勤務の流れ



月	火	水・木	金・土	日
☀️ 日勤	☀️ 日勤	🌙 夜勤16:00~9:30	休み	☀️ 日勤

これが私のオフタイム♪

日勤の日は看護師宿舎に戻って、ゆっくりお風呂に入って、テレビを見て、アイスを食べて…が私の定番コース。新しい技術を学んだ日には、次の時にもしっかり再現できるように振り返りも忘れません！夜勤上がりのお休みの日は、隣県の実家に帰ってのんびり過ごすことも。



先輩 × 後輩

若手の先輩が教育を担当。技術面からメンタル面までしっかりフォロー！

— お二人のご関係を教えてください。

矢括：同じ病棟に所属する先輩・後輩の間柄ですね。私が入職4年目で、福岡さんが1年生です。

福岡：矢括さんは私たちの教育指導担当(メンター)なんです。技術的なことからメンタル的なことまであたたかくフォローして下さる、とても心強い存在です！入職直後から『手の洗い方』『エプロンの付け方』といった基礎の基礎から教えていただき、今に至ります。

矢括：育成では入職4年目の看護師がメンターになるケースが多いんです。最初は「自分にできるのかな？」という不安もありましたが、私自身が先輩たちに教えていただいたことを今度は私が後輩に伝えていきたいなと思ってがんばっています！

福岡：先輩たちは忙しい中でもいつも私たちを気遣ってくださるんですよ。「大丈夫？」と声をかけていただくたびに、安心感をおぼえます。

— お互いの仕事振りを見て、どう感じますか？

福岡：矢括さんのことは、もう本当にいろいろな面で尊敬しているんですが、

例えばコミュニケーション面ひとつとってもすごいなと感じています。患者さんからも家族の方々からも信頼されていて、時には患者さんと一緒に遊んであげたりして…。

矢括：そういう福岡さんこそ、患者さんとコミュニケーションを取るのが上手なんです。患者さんが「まだお風呂に入りたくない」なんて言っているときも、やる気スイッチを入れてあげるのがうまいんです。

福岡：まだまだです！でも嬉しいです、がんばります。

— そういえば、お二人は同郷のご出身なんですよ！

矢括：そうですね。福岡さんが入職した時、言葉ですぐに「同郷だ！」と分かって、なんだか嬉しくなりました。

福岡：私たちの地元って、小児科の大きな病院が少ないんですよ。だからこそ上京して、看護師として成長できる当院を志望したんです。

矢括：育成は、最先端の小児医療に携われるまたとない職場。これからも一緒にがんばっていきましょう！

●先輩看護師 矢括 葉南子 ●後輩看護師 福岡 あいり



助産師

生まれたばかりの赤ちゃんの泣き声が聞こえる。喜びを実感する瞬間です。

看護大学時代に、母性看護の実習でお産を見学する機会をいただきました。分娩室の緊迫感、スタッフの一体感、そして赤ちゃんの泣き声が聞こえた時の嬉しさ、感動…。『お産ってなんてすばらしいんだろう』と大きな感銘を受けたことが、助産師を志すきっかけになりました。助産師というと、シンプルに『お産に携わる仕事』だと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、実はそれはほんの一部に過ぎません。助産師の役割は、妊娠～出産～育児までを含めた周産期を中心に、女性のライフサイクルをトータルにサポートしていくこと。最近ではティーンの方々に向けた性教育などに携わる機会もあり、その仕事領域はますます広がっています。だからこそ当院には、それぞれ異なる分野に強い助産師が多く、母乳の知識が豊富な方、グリーフケアに精通した方、研究に力を注いでいる方など、頼もしい先輩や同僚たちがたくさん在

籍しています。その中で私の強みはというと、やはり『お産介助』でしょうか。お産というのは常にケースバイケース。お母さんお一人おひとりのお気持ちに寄り添いながら、日々、より良いお産を追求し続けていきたいですね。

助産師 前田 凜

【ひとことコメント】

「熱量の高い人」が集まっている当院。私自身、どんなに経験を重ねても常に課題が見つかり、なかなか100%の満足には至りません。学びたい人、成長したい人にはびっぴりの環境だと思います。



男性看護師

どんな時も『子どもは子どもらしく』いられるよう、最大限のサポートを。

子どもに関わる仕事がしたくて看護師を志し、当院に入職しました。入職後は手術室に配属。手術前～手術後の患者さんのケアや執刀医のサポートが主な仕事になるので、患者さんとコミュニケーションを重ねる機会はあまりありません。だからこそ、退院し元気になった患者さんの姿を見ることができた時には言葉にできない嬉しさが湧き上がってくるんです。先日、新人時代に出会った患者さんをお見掛けしました。手術の時には身体を動かすことも話をすることもできなかったお父さんが、今では院内の遊具スペースを駆け回って、楽しそうに歌ったりおしゃべりしたり…。『うわあ、こんなに元気になって!』と感動してしまいました。たとえ手術という制限された状況下であっても、できるだけ『子どもは子どもらしく』いられるよう患者さんの気持ちに寄り添うというのが私の看護観です。寝ている状態で点滴をする

のが苦手な患者さんには、座った状態でできるよう医師に相談したり、手術後にバルーンカテーテルが入っているのが苦手な患者さんには、寝ている間に外してあげたりと、できる限りのことをしてあげられるよう心掛けています。

看護師 中村 和稀

【ひとことコメント】

男性看護師はまだまだ少数派。結束は固く、看護師宿舎でもよく部屋を行き来していました。仕事に性別は関係ありませんが、力仕事などは率先して担当しています。



ママさん看護師

「ママがんばってね!」かわいい応援がモチベーションリソースです。

結婚しても、出産しても、ずっと働き続けたい。看護師になる前から当たり前のようそう考えてきました。入職して最初に配属されたのは NICU。NICU というとハードな職場だと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、当院には仕事と子育てを両立しながら第一線で活躍し続けている先輩看護師がたくさんいます。だから私も、1度目の産休・育休から復職する時には迷わず NICU を志望しました。2度目の復職時には、少し通勤時間がかかるところに新居を構えたこともあり、3 交替制の NICU から 2 交替制の病棟勤務へとキャリアチェンジ。育児時間(30分短縮勤務)を活用したフルタイム勤務を選び、夜勤にも積極的に入るよう心掛けてきました。もちろん復職前には家族としっかり相談し、「夜勤は月 2 回、○曜日と○曜日」といった希望を病棟側と摺り合わせながら徐々に生活リズムを掴み、

現在では自ら希望し月 4 回の夜勤もこなしています。子どもは今、5 歳&4 歳。小さいながらも看護師という仕事のことを分かってくれていて、最近では「ママがんばってね!」「ママかっこいい!」とお手紙をくれたりするので。

看護師 松崎 玲衣

【ひとことコメント】

院内保育園や復職前相談会など、バックアップ体制が充実している当院。感染症の影響で各地の保育園が休業した時には、臨時保育も実施してくれてとても助かりました!



感染管理認定看護師



大切なのはチームの力。当院に関わるすべての人を、感染から守りたい。

NICUに勤務していた頃に、感染が一つの要因となり状態が悪化し亡くなられた患者さんがいました。少し早く、少し小さく生まれた赤ちゃんでした。ご両親と一緒におうちに帰してあげられなかった悲しさ・悔しさが感染管理認定看護師を目指すきっかけとなりました。感染管理認定看護師には、患者さんやご家族はもちろん、当院に関わるすべての人を感染から守る役割があります。適切な感染対策が行えていない場合には指導することも多々あります。時に口うるさい存在かもしれませんが、それも私に課せられた大切な役目だと思っています。感染対策はひとりで行うことはできません。大切なのはチームの力。特に、新型コロナウイルス感染症対策の過程ではそれを痛感しました。当院に出入りする全ての方々へ向けて院内感染対策について広報したり、不足しがちな物品を確保したり、出入口

の制限といった大規模なレイアウト変更を行ったり…。様々な対策を実行するためには、事務や総務をはじめ多くのスタッフの力が必要不可欠でした。感染管理認定看護師として何ができるのか、これからも周囲と連携を取り、自分自身に問いかけながら、支援していきたいと思えます。

感染管理認定看護師 三浦 祥子

【ひとことコメント】

誰にとっても初めての体験となった新型コロナウイルス感染症対策。試行錯誤もありましたが、手指消毒など従来からの感染対策が間違っていなかったことも再認識できました。



小児救急看護認定看護師



業界内外へと広がる活動領域。専門性を活かして、社会全体に貢献したい。

小児救急看護認定看護師として、現在、特に2軸の活動に力を注いでいます。ひとつは「院内トリアージ」。救急外来を受診した患者さんに対して、病態の緊急性と重症化の予測を行い、治療の優先度を決定していくことです。成育医療研究センターは、小児救急医療における院内トリアージの先駆者的な存在であり、緊急度判定支援システム「JTAS」も導入し、活用を進めてきました。学会などで意見や情報を求められることも多く、当院ならではの使命を実感しています。もうひとつは、消費者庁と独立行政法人国民生活センターが共同で実施している「医療機関ネットワーク事業」への参画。救急外来を受診した子どもの事故情報を発信し、事故防止につなげていくというものなのですが、この時に一番大切なのは、なぜ事故が起きたのか、その原因や状況などを詳しく聞き取り、同じ事故を防ぐためのヒントを抽出していくことです。私たちが提供した情報は、医療機関ネットワーク事業を通じて詳しく検証・分析され、消費者やメーカーへと発信されていきます。

これまでに、抱っこひもからの落下事故の情報をもとにメーカーの安全基準が見直されたり、卓上ケトルによるやけど事故の情報をもとに安全性に配慮した新製品が開発されたりと、様々な実績を生み出すことができました。今後も私たちならではの専門性を活かして、広く社会に貢献し続けていきたいですね。

小児救急看護認定看護師 林 幸子

【ひとことコメント】

2020年、小児救急看護認定看護師は「小児プライマリケア認定看護師」という形に進化を遂げました。後輩たちとともに、さらなる使命を追求し続けていきたいです。



認定レシピエント移植コーディネーター



患者さんにご家族の意思を尊重し、100人以上のチームで肝移植に臨む。

成育医療研究センターの肝臓移植プログラムは2005年にスタートし、現在までに700例という世界トップレベルの実績を重ねてきました。1例目の肝移植の際、私はICUに所属しており、患者さんご家族のサポートに携わりました。2008年には院内の移植コーディネーターに任命され、2011年には日本移植学会による「認定レシピエント移植コーディネーター」制度の発足とともに認定を受け、現在に至ります。私たちのミッションは、善意によって提供された命のプレゼントを患者さんやご家族に安全につなぎ、継続した自立支援を行っていくこと。患者さんやご家族の意思を尊重し、移植前～移植後の過程を通じてプロフェッショナルとしてサポートしていくことが重要です。1例の肝移植に関わる医療スタッフは100人以上。外来、NICU、手術室、病棟、そして患者さんご家族もチームの一員です。移植後1～2年が経過した患者さんのお母さんか

ら「このチームで移植が受けられて良かった。ICUにいた時、あんなに辛い思いをしたはずなのに、みなさんのおかげで乗り越えられた」というお言葉をいただいた時、これがやりがいなのかと、胸が熱くなりました。

認定レシピエント移植コーディネーター 中里 弥生

【ひとことコメント】

小さな患者さんには「肝移植は、病気を持つおともだちを元気にしたいと思うやさしい人からの贈り物。お薬は「元気のもと」を守ってくれるものなんだよ」と説明しています。



小児看護専門看護師



患者さんが成長し、次のライフステージへ向かう。その過程を支援したい。

看護師として経験を重ねる中で「もっと研究的な側面から看護というものを学びたい」と考えるようになり、当院の「研究休職制度」を活用して大学院に進学しました。2015年に小児看護専門看護師になり、現在では2016年にスタートした「トランジション外来」で、成年に達する(達した)患者さんのメンタル面のケアなどに取り組んでいます。大切にしているのは「なぜ自分は病院に通っているの?」「なぜこの薬を飲んでいるの?」「そもそも自分の病気はどういうものなの?」といった患者さんの疑問や思いを、面談を通じて受け止め、きちんと答えを返してあげること。たとえ小さなお子さんであっても、「知りたい」「こうしたい」という思いを尊重することが、患者さんの最善の利益を守ることにつながっていくのです。小さい頃から病気を抱えて育っていった患者さんが、思春期を迎え、大人への階段をのぼっていく。その過程をサポートし、「成長を助け、次のライフステージを見

据えた支援を行う」という当院の看護方針を体現できるよう力を尽くしていきたいですね。

小児看護専門看護師 古尾谷 侑奈

【ひとことコメント】

当院の看護そのものの質を高めていくことも、小児看護専門看護師のミッションのひとつ。院内研修の際には講師役を務めることもあります。



リエゾン精神看護専門看護師



こころと身体、人と人…。あらゆるものの「橋渡し」できる存在に。

入社して最初に配属されたのは、小児がんやこころの患者さんが多く入院されている病棟でした。その頃から慢性疾患をお持ちの患者さんの看護に興味を持っていたのですが、その後、思春期の患者さんと向き合う移植関連病棟での勤務や、成年に達する（達した）患者さんのメンタルケアに取り組む「トランジション外来」の立ち上げなどに携わって、身体だけでなくこころのケアにも重点を置く「リエゾン精神看護専門看護師」を志すようになったのです。小さい頃から慢性疾患を抱えてきた患者さんたちが、思春期、成年期へと歩みを進めていく中で、こころ豊かに生きていくためにはメンタルヘルスの維持が重要な鍵を握っており、それを支援していくことが私たちのミッションです。私は2021年12月に専門看護師となり、現在はリエゾンチームの一員として、これからの活動内容を模索している段階ですが、大切にしているのは「橋渡し」というキーワードです。例えば、リエゾンチームには医師や心理士といった専門家が所

属していますが、専門家ならではの深い見立てを現場で実践するためには、現場の看護師たちの理解が必要不可欠。私が専門家と看護師との間に立つことで、スムーズな連携を実現していきたいと考えています。患者さんの身体とこころ、患者さんとご家族、専門家と現場…。あらゆるものを「つなぐ」存在として、力を尽くしていきたいですね。

リエゾン精神専門看護師 江崎 陽子

【ひとことコメント】

専門看護師としての知見を活かし、患者さんだけでなく看護師たちのメンタルヘルスサポートにも力を注いでいきたいと考えています。既に窓口をオープンし、面談などに取り組んでいます。



遺伝カウンセリングナース



「心強い存在です」というお言葉に、この仕事の意義を実感する。

看護大学時代、遺伝看護のゼミに所属していました。当時は遺伝にロマンのようなものを感じており、遺伝カウンセリングナースという職域のある当院への入職を決めたのです。近年、遺伝医療の進歩に伴い、染色体異常や遺伝性疾患の出生前診断、がんの発症前診断、遺伝子治療などに対する期待は高まる一方。当院では国内で唯一、当院でしか受けられない検査なども実施しており、全国から検査希望の方々がお見えになります。私たち遺伝カウンセリングナースの役割は、検査を受けるか否かの意志決定の段階からお一人おひとりに寄り添い、病棟やラボなどと連携しての日程調整、検査前後のカウンセリングまでをトータルに支援していくこと。検査を受ける方々は深い悩みや葛藤を抱えていらっしゃる方が多く、ご本人やご家族にとって人生の岐路ともいえるような重大な局面に立ち会うことも少なくありません。私たち自身も常に自らの倫理観と向き合い、時には患者さんと一緒に涙を流したり、医師をはじめとするチームの仲間と話し込んだりすることもあるほどです。学生時代に感じ

ていたロマンではなく、シビアな現実と向き合うこともしばしばですが、だからこそ「自分のような立場の人間にとって、津島さんは本当に心強い存在です」というお言葉をいただくたびに使命感が湧いてくる。自らの存在意義を実感しながら、この道を追求し続けています。

遺伝カウンセリングナース 津島 智子

【ひとことコメント】

2023年4月より大学院に通い「遺伝看護専門看護師」資格の取得をめざすことに決めました。遺伝は究極の個人情報。それに触れる者として、知識にもスキルにも磨きをかけ続けていきたいです。

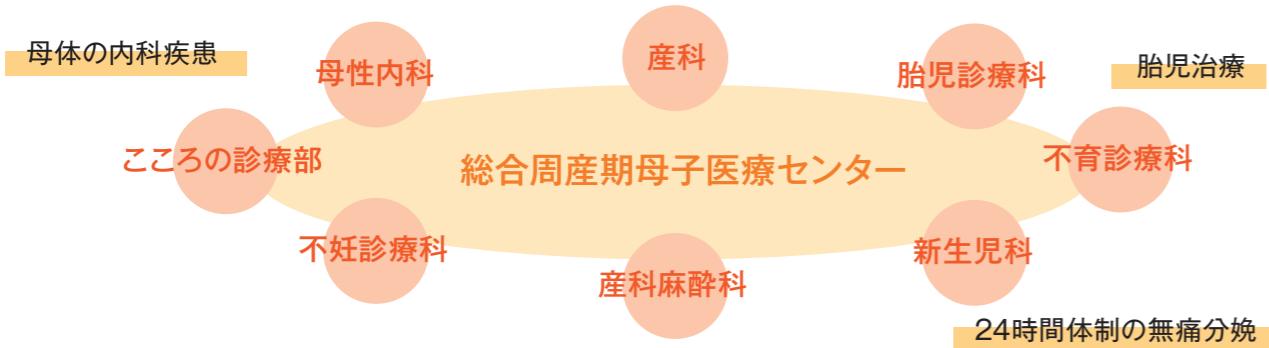


私たちが大切にしている看護実践

病棟	発達段階	主な診療科	看護内容
PICU	新生児から思春期 (平均年齢は3~4歳)	集中治療科	生命の危機にある患者や高侵襲の手術直後の患者に対して、ECMOなどの特殊機器を用いた治療や、高度な知識や技術を駆使した看護を提供しています。緊急場面では何よりも多職種との連携が重視されるため、日頃よりコミュニケーションが良好に図れるよう取り組んでいます。
NICU	新生児、低出生体重児、超低出生体重児	新生児科を主科とし、外科系・内科系各科	500g未満の出生児や24週未満で出生した、ハイリスク児の集中治療看護や手術を要する児の先駆的治療に対応できる専門的知識・技術を、親子の愛着形成を重視しながら提供しています。NICU内で年間約130例の手術を実施しています。
4GCU	新生児、低出生体重児、幼児	新生児科を主科とし、外科系各科・内科系各科	育児や成長発達を助け、ご家族と退院後の赤ちゃんとの生活がイメージできるよう援助しています。また、在宅医療に移行する児は、総合診療部や小児病棟とカンファレンスを行い、MSWや地域と連携し、退院にむけての支援を行っています。
6階東 MFICU	周産期医療を必要とする成人期、新生児期	産科、胎児診療科、母性内科	ハイリスク妊産婦に対し、最適な状態で出産を迎えられるよう、安心・安全な環境、心に寄り添う看護を提供しています。また、産後は多職種や地域と連携して育児環境を整え、個別性に沿った看護を提供しています。
6階西 6GCU	周産期医療を必要とする成人期、新生児期	産科、胎児診療科、新生児科	母親とその家族が持つ産み育てる力、生まれてくる力を育み、発揮できるよう安心、安全な環境を提供し支援しています。また、助産外来、母乳外来、産前指導など運営し看護の専門性やスキルアップを図っています。
7階東	新生児、乳幼児、学童期	外科、泌尿器科、眼科、総合診療科	主に新生児から学童期の外科的疾患を持つ子どもが入院し、それぞれの成長発達に合わせた看護を行っています。手術や検査に対する心の準備の支援(プリバレーション)を行い、不安や苦痛が少しでも軽減できるような看護をしています。
7階西	乳幼児	脳外科、整形外科、形成外科、耳鼻科、総合診療科	成長段階に合わせ、繰り返し手術を受ける患児が多いため、創管理、ドレーン管理、リハビリ、栄養管理等入院から在宅まで幅広い支援を行っています。更に、きょうだいを含んだ家族支援にも力を入れています。
8階東	乳幼児	循環器科、心血管外科、腎臓・リウマチ膠原病科、神経内科	先天性心疾患や腎不全などの病気を持つ子ども達が入院しています。補助人工心臓を装着した患者の看護を充実させるため、人工心臓管理技術認定士もいます。また、心臓移植(国内・海外)を受ける患者や家族の支援を行っています。
8階西	乳幼児、学童期	小児がんセンター腫瘍科	小児がんの患児・家族が安心して治療を受けられ、その子らしい生活を送る事ができるようにサポート体制を構築しています。また、疾患の再発による終末期の患児に対する緩和ケアや精神的ケアなど幅広い視野でサポートできるように関わっています。
9階東	乳幼児	総合診療科	緊急入院が多く、患者・家族の不安に寄り添った看護ができるように心がけています。また、在宅移行患者の退院支援では、訪問医や訪問看護師と連携しながら患者・家族に適した在宅調整ができるように検討しています。
9階西	乳幼児	移植外科、アレルギー科、内分泌代謝科	臓器移植を受ける患者と家族を支え、急性期看護や退院後の生活を捉えた指導を移植コーディネーターと協働し行っています。またアレルギーエデュケーター、糖尿病療養指導士と連携し、入院前から退院後まで、患者のライフステージに沿った関わりを心がけています。
10階東	学童・思春期	総合診療科、整形外科、消化器科	総合診療科をメインとして、様々な疾患の患者が入院している病棟です。院内学級に通学している患者も多く、学校と協力して学習支援も行っています。夜間緊急入院を受け入れており、突然の病気やけがで不安な入院を多様な知識と技術で支援しています。
10階西	学童・思春期	小児がんセンター腫瘍科	小児がんは、治癒が見込める病気となってきています。病気と闘いながら成長発達する患者とその家族を多職種チームで支え、その子どもの持っている力を引き出すような看護を心がけています。
11階東	思春期・成人	総合診療科、不妊診療科	小児期より疾患を抱え成長した患者の社会生活の自立を目指した援助を行っています。また、移植手術ドナー患者や不妊症の患者に対して、様々な葛藤や不安を傾聴し、細やかな配慮を心がけ、治療に専念できるよう支援しています。
11階西	成人	産科、胎児診療科、母性内科、新生児科	出産後のお母さんと赤ちゃんの病棟です。母児同室・母乳育児を推奨しており、退院してからの生活を視野に入れて丁寧に関わっています。また、当院で出産した方を対象に、産後ケア(コアラサポート)も行っています。
手術室	胎児~成人まで (70%が12歳以下)		先天性の異常や奇形に対する手術が多く、成長・発達段階に応じて、複数回手術を受ける患者もいます。術前・術後訪問により、患者のストレスを最小限にし、安全に手術を受けられるように支援しています。
救急センター	当センターを受診するすべての年代の方を対象	救急診療科、周産期・母性診療センター	院内トリアージや重症患者対応に加え、多職種と連携した子ども虐待対応・子どもの事故予防啓発、ホームケア指導などを行っています。子どもたちの生命を守り、かつ子どもの健やかな成長発達のために、保護者が安心して育児を行えるようにも支援しています。
外来	外来を受診するすべての患者	産科、小児科	外来では、健康障害のある患者のフォローアップや看護相談・各種検診を行い安心して生活ができるように支援しています。さらに、移行期看護として、子どもから大人になることへのサポートを行っています。
もみじの家	0歳~18歳未満	在宅診療科、緩和ケア科	医療型短期入所施設であり、医療ケアを生活を支える手段の一つと捉えて、可能な限り自宅でのケアを引き継ぎ、時には自宅での生活をより良くするためにどうしたらよいかという視点でサポートしています。また、最後の時間を家族と過ごすために支援しています。

周産期・母性診療センター

国立成育医療研究センターは MFICU6 床、NICU21 床を有する総合周産期母子医療センターです。分娩件数は年間約 2200 件、24 時間体制で無痛分娩に対応しており、全経膈分娩の約7割が無痛分娩で出産されるという特徴があります。さらに、胎児診療科があり、胎児治療を行っています。また、正常といわれる妊産婦の妊娠・分娩管理だけでなく、ハイリスク妊産婦の妊娠・分娩管理が行われています。



取り組み

1 助産師教育

院内教育では能力開発プログラム助産師版を使用しています。病棟では助産師の技術向上を目的として、分娩助産、母体急変時対応、新生児蘇生について、定期的にシミュレーション教育を行っています。また、助産師外来、母乳外来の中心的役割を果たすアドバンス助産師の取得に向け、入職時から、分娩助産や保健指導、研修などを調整し、ポートフォリオとして自己でも管理しています。



2 AI車いす

出産後の患者さんを病室まで自動運転で移動させる「WHILL 自動運転システム」を開始しています。同サービスはこれまで、病院外来や空港などでの活用事例はありましたが、病棟内での利用は国内初となります。



3 助産師外来・母乳外来

助産師外来では妊婦さんの話をしっかり聴き、そこから保健指導につなげています。母乳外来は当センターで分娩された方・赤ちゃんが当センターに入院中の方を対象とし、母乳育児支援を行っています。



4 成育ホスピタリティー

妊産婦さんが快適に入院生活を送り、また当センターで分娩したいと思っただけのように多職種で協働し、様々な取り組みを行っています。今年度はこだわりの素材を使用したリネン類やアメニティを採用した「手ぶら入院」。展望レストラン銀座スエヒロでの夜景と食事を楽しめる「お祝いディナー」を導入しました。



5 コアラサポート(産後ケア)

当院で出産された方を対象にコアラサポート(産後ケア)を行っています。産後のからだどこの回復に向けて、一人ひとりのニーズにあったケアを行っています。助産師が中心になって専門性の高い育児サポートを提供するとともに、退所後も自立した子育てをご自宅実践できるような支援と情報提供を行っています。



6 プレコンセプションケア(PCC)

コンセプション(Conception)は受胎、つまりおなかの中に新しい命を授かることであり、プレコンセプションケア(Preconception care)とは、将来の妊娠を考えて女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合うことです。当院では、プレコンセプションケアセンターを日本で初めて開設しました。助産師は、医師の診察のサポートとして事前の電話問診を行っており、妊娠前の不安や悩みに寄り添うケアを心がけております。



AI ホスピタル事業

国立成育医療研究センターは 2018 年度から 2022 年度にかけて、内閣府が主導する科学技術イノベーション実現のための国家プロジェクト「戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)」の一環である「AI(人工知能)ホスピタルによる高度診断・治療システム研究事業」に参加しました。具体的にはこの事業に参画する企業や医療機関と連携しながら、小児・周産期分野での診断支援や遠隔診療システムの開発、医療現場でのロボットの活用やビッグデータを活用したプログラム開発研究等を通して、患者さんの満足度の向上と医療従事者の負担軽減に取り組みました。当センターは先端技術を医療で活用することで安全、安心で思いやりのある医療の提供をこれからも目指していきます。

取り組み

AI を用いた妊婦検診支援システム

健診受診をオンラインで行うことで、遠方からの通院や仕事を持つ妊婦さん、子育て中の妊婦さんの通院負担を減少することが可能になります。また COVID-19 をはじめとする感染症流行下では妊婦と医療従事者の感染リスク減少にも効果的です。AI を用いたシステムにより、不安や症状を抱える妊婦さんには適切なタイミング、的確な方法でアドバイスや医療の提供を行います。



テレプレゼンスシステム「窓」を用いた取り組み

感染症対策や長期の入院により面会の難しい患者さんご家族を、等身大の大きさで高音質で同じ空間にいるかのような臨場感を感じることのできる、次世代コミュニケーション装置「窓」でつないだ面会を実施しています。病院の外に出る機会が少ない患者さんを外の世界とつなぐイベントにも活用して、面会にとどまらない家族の絆、社会とのつながりを支援していく取り組みです。



aibo* のホスピタル向け連携アプリ開発

各病棟に配置された、AI を搭載したエンタテインメントロボット aibo が療養中の患者さんに寄り添います。入院中の心細さや不安を和らげ、治療への不安・ストレスを癒す効果について学術的指標を用いた分析を行いながら、患者さんの意見や医療現場のフィードバックを反映させた、aibo の医療機関向け連携アプリ開発に取り組んでいます。

*aibo はソニーグループ株式会社の登録商標です。



もみじの家

継続的な医療ケアを必要とする子どもと家族が安らげる場所として、2016 年 4 月医療型短期滞在施設を開設しました。

自宅で医療ケアを受けている子どもと家族を短期間受け入れ、ひとり一人が子どもらしい生活、くつろいだひと時を過ごせるよう、さまざまな医療ケアに対応します。同世代の子どもたちと遊んだり学んだり、普段自宅ではなかなかできないことをして過ごすことができるよう、日中活動を計画します。家のような安心・リラックスできる団欒の場をつくり、子どもの成長・発達に応じて“わくわく”する体験を提供します。また、子どもに「寂しい思いをさせたくない」「幼少期のため手を離せない」「スタッフに普段の子どものケアを伝えるため、初めのうちは泊まりたい」といった方々のため、家族で滞在できる部屋も設けています。そして、限りのある“いのち”を大切な人と穏やかに過ごすための場所としても使われます。



就職希望者説明会

就職説明会については、ホームページでお知らせいたします。ご確認ください。

お問い合わせ 国立成育医療研究センター 看護部 副看護部長室 (東京都世田谷区大蔵二丁目10番1号)
TEL/03-3416-0181(内線5006)

応募資格

有資格者 < 助産師・看護師 >、
または 2024 年 3 月卒業見込みの者、
夜勤 (二交替勤務・三交替勤務) ができる方

応募手続き

次の必要書類を国立成育医療研究センター人事部人事課人事係へ郵送してください。
(21P 下部に詳細住所を記載しております。)

必要書類

必要書類	有資格者	卒業見込み者
自筆履歴書 (当院指定のもの)*1	○	○
成績証明書*2	○	○
卒業見込み証明書		○
卒業証書 (写) (高等学校以上全て)	○	○
看護師免許証 (写)	○	
助産師免許証 (写)	○	
保健師免許証 (写)	○	

応募書類受理後受験案内を送付致します。

※1 履歴書の書式は当院指定のものをご利用ください。
また手書きでのご記入をお願いします。

※2 助産師受験者の成績証明書は看護学校もしくは看護学部時の成績証明書と一緒に提出してください。

合格発表

郵送にて通知いたします。

選考方法

第 1 次審査 (書類)、第 2 次審査 (適正検査・面接)
採用試験第 1 回目は、2023 年 4 月を予定しています。
4 月以降の採用試験日、選考の詳細につきまして、
ホームページをご確認ください。

採用試験のスケジュール

8:30 ~ 9:00	受付
9:00 ~ 9:10	オリエンテーション
9:10 ~	面接

2024年度看護職員採用試験日程

	試験日 (面接)	応募期間	合格発表日
第1回	2023年4月22日(土)	3月1日(水)~4月3日(月)必着	5月8日(月)
第2回	2023年5月21日(日)	4月4日(火)~4月11日(火)必着	5月29日(月)
第3回	2023年6月18日(日)	5月8日(月)~5月15日(月)必着	7月3日(月)
第4回	2023年7月23日(日)	6月19日(月)~6月26日(月)必着	8月7日(月)

※当センター指定の履歴書に希望する受験日をご記入ください。
※定員に達し次第、採用試験は途中で終了となります。ホームページでお知らせいたします。
※適性検査の内容についてはお答えいたしかねますのでご了承ください。

- 必要書類は必ず郵送で送付してください。必要書類は、「必着」です。
応募期間最終日の17:00 までに人事部へ届かなかった書類は無効となります。
- 応募書類は返却いたしません。ご了承ください。
- 希望する試験日の応募期間をよくお確かめの上ご応募ください。
- 面接日の 1 週間前までに第 1 次審査の合否書類を郵送いたします。
- 1 回受験された方は、再度の受験はお受けできません。

採用 (予定) 月日

2024年4月1日(土)

処遇

給与 2022年4月の入職者の実績(諸手当込みの概算)

職種	初任給
看護師 (3年制 看護学校卒)	300,000 円
看護師 (4年制 大学卒)	313,000 円
助産師	316,000 円

諸手当：夜勤手当、夜間看護等手当、超過勤務手当 他
賞 与：年 2 回 (6 月、12 月)

※職歴等に基づいて基本給が加算されるため、給与額には差が生じます。

休暇等 4週8休、年次休暇、病気休暇、リフレッシュ休暇、結婚休暇、産前・産後休暇、育児休業 他

勤務時間

二交替	日 勤	8:30 ~ 17:15	PICU・NICU 二交替	日 勤	8:30 ~ 17:15
	夜 勤	16:00 ~ 9:30		長日勤	8:30 ~ 21:15
				夜 勤	20:00 ~ 9:30

その他

- 院内に看護師宿舎 (ワンルームタイプ) が有ります。入寮期間は最長 4 年です。2024 年 3 月に卒業される新卒看護職員のみ利用できます。社会人経験者 (看護職以外も含む) はご遠慮いただいております。
- 院内教育は成育医療・看護の分野における専門的知識、技術の習得のためのプログラムを計画しています。
- 環境：周辺には都立砧公園・美術館、区立総合運動場などがあり、緑も多く恵まれた環境にあります。
- 応募書類は、個人情報保護法に基づき、当院において責任をもって処分させていただきます。



看護師宿舎

必要書類送付先 / 応募についてのお問い合わせ

国立成育医療研究センター 人事部人事課人事係

住所 〒157-8535 東京都世田谷区大蔵二丁目10番1号 TEL 03-3416-0181 (内線 5102・5131)

名称

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター

ロゴマーク

国立研究開発法人
国立成育医療研究センター
National Center for Child Health and Development

成育キャラクターロゴマーク

センター内職員および患者さんに公募して集まった沢山の作品の中より、投票によって選ばれたロゴマークです。(左:いくぞうくん、右:せいこちゃん)

象のロゴの由来

当院の敷地内には開院当初より象のオブジェがあり、受診する子どもたちからは「ぞうさんの病院」と親しまれていました。

所在地

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵二丁目10番1号
TEL.03-3416-0181(代表) FAX.03-3416-2222

病床数

入院病床 490床 / 1日平均外来患者数 900人

診療科

〈28科〉内科、精神科、神経科、呼吸器科、消化器科、循環器科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、心療内科、小児外科、矯正歯科、小児歯科、病理診断科、麻酔科

指定医療機関および事業活動

- 保険医療機関 労災保険指定医療機関
- 生活保護指定医療機関
- 自立支援医療指定医療機関（更生医療）
- 自立支援医療指定医療機関（育成医療）
- 養育医療指定医療機関
- 児童福祉法による助産施設
- 子どもの心の診療ネットワーク事業 中央拠点病院
- 小児がん拠点病院・小児がん中央機関
- 臨床研究品質確保体制整備事業
- 妊娠と薬情報センター
- 小児と薬情報収集ネットワーク整備事業
- 小児慢性特定疾病情報センター
- 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査) メディカルサポートセンター
- メディカルゲノムセンター

アクセス

[電車・バスでお越しの方]

- 成育医療研究センター前、成育医療研究センターバス停下車
- ◇小田急線 成城学園前駅より 小田急バス、東急バスで約15分 (渋谷駅、用賀駅、等々力操車所、弦巻営業所行)
- ◇東急田園都市線 用賀駅より バスで約20分 (成城学園前駅行)
- ◇東急田園都市線 二子玉川駅より バスで約25分 (成育医療研究センター行)
- ◇渋谷駅より バスで約40分 (小田急バス/成城学園前駅西口、調布駅南口行) (東急バス/成城学園前駅西口行)

※所要時間は交通状況によって大きく変わります。
Googleなどで表示される所要時間より時間がかかる場合がありますので、お時間に余裕を持ってお越しください。

[タクシー・徒歩でお越しの方]

- ◇小田急線 成城学園前駅南口より タクシーで約5分

[MAP]

成城学園前駅 祖師ヶ谷大蔵駅 小田急線

山野小学校 環状8号線 三本杉陸橋

日本大学 商学部 NHK 放送技術研究所

砧小学校 世田谷通り 用賀駅

世田谷総合運動場 砧公園

東名高速 東京IC 用賀IC

二子玉川駅 東急田園都市線

病院 ホームページ

採用 ホームページ

ファシリティドッグ

ファシリティドッグは、病院で活動するために専門的に育成された犬のことです。ハンドラーと呼ばれる、犬をあつかう研修を受けた臨床経験のある看護師とともに、入院患者の治療や療養生活に関わります。



ハンドラーとファシリティドッグのマサ



点滴挿入支援



手術への同行

※このパンフレットに掲載の「先輩メッセージ」の内容は、取材当時のものになります。

国立成育医療研究センター配置図

Building Layout

National Center for Child Health and Development

教育研修棟
Education and Training Center

臨床研究センター棟
Center for Clinical Research

病院棟
Hospital

もみじの家
Momiji House

マクドナルドハウス
Ronald McDonald House

バイオバンク棟
Biobank

研究棟
Research Institute

管理棟・講堂・そよ風分教室
Operation building · auditorium · Soyokaze Classroom